

松本市教育研修センターだより

No.7 令和4年11月4日

「探究」の力

～丸ノ内中学校の実践に学ぶ～

丸ノ内中学校では今年度、「総合的な学習の時間『忠恕の時間』のあり方」を全職員で見直し、生徒が自らのテーマを決め探究を進めていく学びの実現を願い、学年・学級の実践を進めました。

3年生は、各学級でグループを結成し、各グループで決めたテーマ（「松本の魅力紹介」「ジェンダー平等」「松本の食」「環境」等）に沿って、4月から学習活動を進めてきました。そして、この10月28日（金）に学習発表会を開催。3年生が探究の成果を1、2年生にプレゼンテーションする機会を持ちました。



「アウトプット力」の高まり

参観して驚いたのは、各グループの子どもたちのプレゼンテーション力の高さです。生徒たちは、自分たちが作成したスライドに沿って、活動のねらいや具体的な内容、工夫した点などをしっかりと声で会場に集まった1、2年生に伝えていました。クイズを取り入れたり、途中でインタビューを取り入れたりしながら、双方向でのやり取りを工夫するグループや、作成したスタンプを押す活動を取り入れるグループなど、それぞれに相手意識を確かに、発表の工夫をしていました。

「学びの意味」を見出し、伝える生徒たち

もう一つ印象に残ったのは、生徒たちが「学習活動に取り組んできたことの意味」を見出し、それを1、2年生に伝えようとしていたことです。グループのある生徒は、会場からの「どういう目的でこの題材に取り組んだのですか」という質問に対して「『きっと〇〇ではないか』という思い込みで調査を始めたが、実際に調べてみると、思いがけないことに会うことばかりだった。物事に興味関心を持ち、調べてみるのが大切だと強く感じた。」と熱い言葉で語っていました。

「環境」に取り組んだグループの生徒たちに発表後に「『忠恕の時間』の自分にとっての意味」を尋ねてみると、「自分の成長が自覚できる時間だった」「感謝されることのうれしさを実感できた」「『自治』を大事にしている丸ノ内中学校にとってなくてはならないもの」と口々に答えてくれました。生徒たちが自分たちの学んできたことの意味・よさを自覚し、誇りに思っていることが強く伝わりました。

「学び方」のモデルに

3年生の発表を聞いた1、2年生は、意見交換の場でも積極的に挙手し、質問や感想を発言していました。評価カードには、「発表の仕方」「発表の内容」の2つの観点から、たくさんの言葉が書き込まれてきました。対話活動が日常的に行われていることを感じました。ある会場で、校長先生が「こんな3年生になりたいと思った人！」と問うと、会場の1、2年生全員がためらわずに手を挙げました。3年生の顔は、誇らしさと、少しのはにかみとで輝いていました。ここに確かな「学び方」の伝播があったことを感じました。



「探究的な学び」のもつ力

このような生徒たちからは「自立した学び手」としての姿を強く感じました。「自らの問いを自分たちの方法で心行くまで探究する」学びの経験が子どもたちを成長させる「力」を改めて思い知る機会となりました。今、多くの学校でこのような「子どもの主体的な学び」の具現に向け、取組まれていることと思います。今後も様々な学校のチャレンジを共有し、学び合っていきたいと思っています。

ワークショップ型研修の2回目が実施されました！ ～「スクールミドルリーダー」「小学校算数授業づくり」の様子から～

2回連続で研修に参加された先生方もおられ、熱心な中にも笑顔がみられる温かな雰囲気を感じられた研修となりました。今回は、2つの研修の様子を紹介したいと思います。

第2回「〇〇主任のお仕事ゼミ」 ミドルリーダー研修 10/17



4回シリーズの研修の第2回。今回は講師に信州大学教職支援センター准教授 荒井英治郎先生をお招きし、「働き方改革」について考えました。荒井先生の「働き方改革をマネジメントする」の講義を通して、「何のための働き方改革なのか？」「なぜ働き方改革は進まないのか？」などの視点をいただき、先生方は、自校の働き方改革を進めるにはどうしたらよいのか、他校の実践を聴きながら真剣に語り合っておられました。

【感想より】

- ◆「働き方改革＝勤務時間の削減」の理解でよいのか？という問いについて考えさせられました。時短、効率化だけを考えて贅肉をゴツゴツ落とし、骨皮だけになった学校に豊かさはあるのかなあと。「子どもと向き合う時間」は、単に子どもと向き合っただけではないと思います。子どものことを思い浮かべながら授業準備をする、家で勉強する子どもの顔を想像しながらテストを作る、子どもが活躍する場を増やすために文化祭の構想を立てる、これらも含め「子どもと向き合う時間」とするならば、削ろうとしている時間や活動の中にこのような時間がないか考えることが大切かなあとも思いました…
- ◆…政府の財政支援がなければできない、外科的治療は管理職のトップダウンの指示がなければできないなどと、自分では変えることのできない状況を嘆くのではなく、他校の工夫を共有しながら、勤務校での働き方改革を推進し、よく反対されて反故になるが、討たれてもめげずに出る杭になりたい…
- ◆学校現場で勤務してきた中で、「あの先生がいたから助かった、ありがたかった」という経験がたくさんあります。私が助けられたのは、私とは違う資質・能力をもった同僚がいたからです。しかし、いざ「働き方改革」となると、多様な職員集団とわかっていたはずのものが、一様な働き方や働き方改革を求めたり、一様な勤務観という物差しではかったり考えたりしてしまうことが多く、それではだめだということを今日の研修で再認識しました…

第2回 算数の授業を語り合う会「小数や分数のわり算はどう教えたらよいのかな」10/18



今回は、「小数や分数のかけ算やわり算の指導」について考え合いました。佐藤茂太郎先生の「 $24/5m$ のロープを $2/3m$ ずつ切ると、何本できて何mあまりますか」という問いから、子どもの気持ちになって分数のわり算の意味について語り合いました。

【感想より】

- ◆子どもたちが問題に出会ったときに、どのように考えたらよいのか分からない児童が一定数いるということや、子どもたちの困り感を理解し、それに寄り添えるような授業をつくっていききたい…
- ◆…「先生それノートに書く？」と聞かれたことがあるというお話です。私も、特に算数の授業でその言葉を口にする児童がいます。そう聞かれた時点で、子どもたちは授業を主体的ではなく、受け身で聞いているんだな…

お問い合わせ等は教育研修センターへ

0263-87-9909

e-kensyu@city.matsumoto.lg.jp